



◆今回は「喫茶タイム」の店主、花田 ^{はな} ^た ^{ひと} 均さんを取材させていただきました。
 喫茶タイムは、福島町の憩いの場として長年にわたって営業しており、『コーヒー』や『タイム風焼きそば』を始めとした、こだわりの逸品が多数。昔からの馴染みのお客さんや学生たちが花田さんの優しさと逸品を求め、店内は毎日賑わっています。

問1. お店を始めたのはいつですか？

昭和48年8月、私が24歳の頃に始めました。今年で44年目になります。

問2. お店を始めたきっかけは何ですか？

私は「北海道鉄道学園」を卒業後、「日本国有鉄道函館支社」で働いていました。民営化されたため、現在でいう「JR北海道函館支社（北海道旅客鉄道株式会社函館支社）」ですね。ずっとそこで働くつもりだったので、22歳のある日、東京都在ある「鉄道技術研究所（現・公益財団法人鉄道総合技術研究所）」への異動を命じられました。当時の私は北海道から出たくなかったため、仕事を辞めて福島町に戻ってきました。戻ってきた頃は、青函トンネルの工事が行われていたという背景もあり、今の3倍ほどの福島町民がいましたね。現在福島町役場がある場所には、北海道旅客鉄道松前線の「渡島福島駅」があり、駅前通りも人がたくさん行き来していました。



▲ミルク感たっぷり、優しい気持ちになれる喫茶タイムの『ホットココア』

お店も通行人も多数、しかし、一つだけないものがありました。そう、「喫茶店」がなかったのです。

親が漁師であったため「後を継がないか」と声をかけられましたが、「たくさんの方がくつろげる空間として、喫茶店を開きたい！」という強い思いから、漁師を継がずに、喫茶店を開くことを決意しました。

当時は本当に人が多かったため、昼間の店内は満席、夜も21時までお客さんが入りっぱなしの状態が当たり前でした。大変ではありましたが、たくさんの方々の憩いの場を作ることができたこと、お客さんと色々な話をして楽しめたことが、凄く嬉しかったのを覚えています。